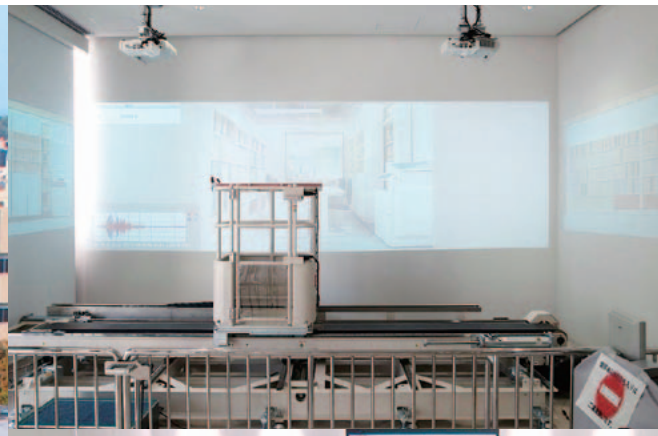
NUAL Newsletter

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

No.22 平成 26(2014) 年 10 月

NUAL（ニューアル）は Nagoya University Alumni Association の略称です。



減災館（左：全景，右上段：長周期の揺れを体験する BiCURI，右下段：減災ギャラリーで行われる減災カフェ）
Disaster Mitigation Research Building (Photos. Left: a panorama of the building; Upper-right: BiCURI, the long period seismic wave simulator; Lower right: a tea party (Gensai café) at Disaster Mitigation Research Gallery)

Contents

特集　減災連携研究センターと減災館 ・・・・・・2
Disaster Mitigation Research Center and Disaster Mitigation Research Building

活躍する会員たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
NUAL People in Action

同窓会ニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
NUAL News

事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
From the NUAL Office

地震や水害などの自然災害が多発するなか、災害による被害を食い止める減災の考え方が注目を浴びています。今号では、2014年3月に完成した減災館をはじめとする名古屋大学における減災への取り組みをご紹介頂きます。

In order to reduce damages caused by the occurrence of natural disasters, such as an earthquake and a flood, people start to adopt a natural disaster reduction approach. In this volume, the initiative taken by Nagoya University, such as Disaster Mitigation Research Building (completed in March 2014) will be introduced.

特集

減災連携研究センターと減災館

Disaster Mitigation Research Center and Disaster Mitigation Research Building

名古屋大学では2010年に減災連携研究センターが発足し、今年は減災館が完成しています。センター長の福和先生に名古屋大学における減災への取り組みの経緯をご紹介頂きました。

Nagoya University launched Disaster Mitigation Research Center in 2010, and its research building “Disaster Mitigation Research Building” was completed in this year. Dr. Fukuwa, the director of the center, introduce us history of the center and their missions.

名古屋大学減災連携研究センター長
教授
福和　伸夫

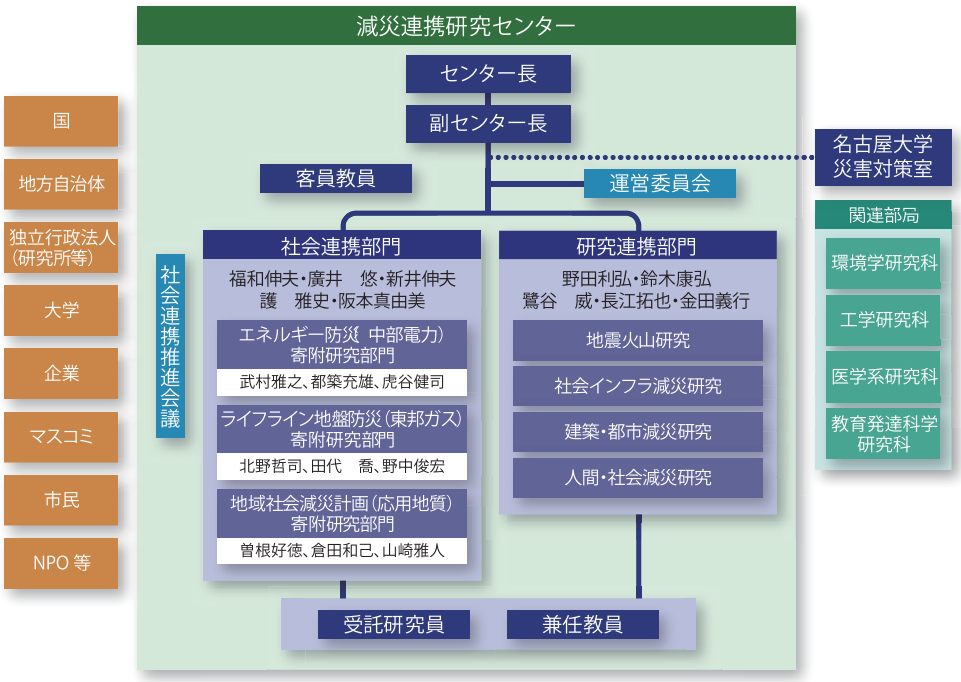
減災連携研究センターの発足

名古屋は、明治以降、1891年濃尾地震、1944年東南海地震、1945年三河地震、1959年伊勢湾台風、2000年東海豪雨と、数多くの自然災害を経験してきました。ですが、人工空間に囲まれ、自然との距離が拡大するようになり、多くの市民は、災害を他人事と考えるようになりました。研究者や技術者も人のことは言えず、災害に関わる研究や業務をしていても、身の回りの災害対策ができていない場合が散見されます。

そんな中、南海トラフ地震や首都直下地震、富士山噴火などの危険性がマスメディアを賑わしています。気候温暖化に伴う風水害の増大も心配されています。繰り返し襲ってくる南海トラフ地震は避けることができません。名古屋大学は、予想被災地の中心に位置する基幹大学です。そこで、迫り来る南海トラフ地震を前に、抜本的な災害軽減のため、社会の総力を結集することをめざし、2010年12月に減災連携研究センターを発足しました。その名の通り、災害を減らすため（減災）、社会の総力を結集する（連携）研究センターです。

このセンターの前身は、2001年4月に設置された大学院環境学研究科の安全安心プロジェクトです。環境学研究科は、当時の松尾稔総長の下、本格的な文・理・工の連携研究科として発足しました。それ以降、10年間にわたって「中京圏地震防災ホームドクター計画」と名付けた地域ぐるみの減災活動を進めてきました。この活動は、中央防災会議が進める「災害被害を軽減する国民運動」のひな形としても認知され、「防災でも元気印『恐るべし名古屋!』その仕掛け人たち」（時事通信社、2007年）としても取り上げられました。

減災連携研究センターは、当初1年余りは、環境学研究科、工学研究科、医学系研究科、教育発達科学研究科の関係教員約30人が兼務する形で活動を進めましたが、東日本大震災の発生を受けて、2012年1月に6名の教員が既存研究科



減災連携研究センターの組織

から異動し、本格的な活動を開始しました。さらに、2012年4月に、産業界の協力を得て、3つの寄付研究部門を設置し、そして本年4月には外部研究費や総長管理定員の措置などにより特任教員を採用して、現在、20名規模の研究センターにまで育ちました。100名規模の教員が居る東京大学地震研究所、京都大学防災研究所、東北大学災害科学国際研究所には及びませんが、中京圏の災害軽減を担う拠点を整えることが出来ました。

減災館の完成

この3月には、減災館が四谷通り沿いに完成しました。名古屋には、首都圏や関西圏と異なり、基幹的広域防災拠点が未だ整備されていません。また、そなエリア（東京臨海広域防災公園）や人と防災未来センターのような防災教育・啓発拠点もありません。このため、減災館は、減災研究の拠点としての役割に加え、災害対応の拠点、人材育成・啓発の拠点という3つの役割を担うことを目的にしました。

減災研究の拠点

減災研究のシンボルにするため、建物そのものを耐震研究実践の場にしています。建物の規模は、地下1F・地上5F、延床面積2,898m^{2}と小振りですが、四谷通りに面した三角形の建物なので、少し目立ちます。躯体は鉄筋コンクリート造で、東山キャンパス初の免震構造です。新たな免震・制震技術の導入を容易にするため、免震システムは、積層ゴム、直動転がり支承、オイルダンパーからなる弾性免震とし、3秒弱の地盤の卓越周期との共振を避けて、免震周期を5.2秒としています。免震クリアランスは90cm で、通常の免震建物の1.5倍の地震動や最大クラスの南海トラフ巨大地震に対しても安全性を確認しており、全国でも稀な高性能免震建物になっています。

減災ギャラリーと床面空中写真

屋上には重量410トンの減災・体感実験室があります。これも、周期5.2秒の免震建物です。アクチュエータで加力すると、片振幅70cm 程度の揺れを再現することができます。室内には、映像・音響設備により震災時の状況を揺れと同期して再現する VR（バーチャルリアリティ）システムがあり、心理実験や災害対応訓練に活用する予定です。この加力システムを利用すると、5600トンの建物本体を震度3程度で揺することもできます。将来は、この実験室を、強風対策のための TMD（チューンドマスダンパー）や、絶対免震のための AMD（アクティブマスダンパー）としても利用したいと考えています。

地下の免震層にはジャッキを設置していて、10cm 程度の強制変位加振を行うことができます。建物本体と屋上実験室は何れも固有周期が5.2秒ですから、これを地盤と建物と見立てれば、高層建物の共振現象を再現できます。これを利用して、共振回避のための制振システムの研究開発を行う予定です。

屋上の減災・体感実験室の外観

減災・体感実験室内の3次元 VR システム

また、建物には、多数の地震計や、土圧計、変位計を設置していますので、新たな振動モニタリング手法の研究開発も行うことができます。これらを利用して、建物や免震システムの経年変化把握や、ライフサイクルモニタリングなど、最新の耐震工学研究を進めていく予定です。

災害対応の拠点

東海地域及び名古屋大学の災害対応の拠点としての機能も備えています。2階には名古屋大学の災害対策室があります。大規模地震等の災害発生時には、ここに大学の災害対策本部が設置されます。地震観測情報を始め種々の災害情報を収集しつつ、全学放送設備などを利用して的確な情報提供をする予定です。1階の減災ホール・減災ギャラリーは地域の行政機関やメディアに、また、3〜4階は全国から集まる研究者に開放し、災害対応に活用してもらう予定をしています。一方、他地域で災害が発生した時には、情報集約拠点としてのクリアリングハウスの役割を果たす予定です。

災害対策本部の機能を果たすため、免震構造の採用に加え、1週間連続稼働できる150kVA・120kW のディーゼル発電機や10kW の太陽光発電装置を屋上に設置しており、停電時にも電力の供給が可能です。さらに、100人 ×10日分に相当する3m^{3}の飲用水タンク、17m^{3}の雑用水タンク、自治体衛星通信用パラボラアンテナや中部地方整備局と結ぶ長距離無線 LAN なども屋上にあります。これにより、行政と連携して災害時の状況把握や情報収集を行うことができます。排水槽、空調、外部電源などにも災害用の工夫を凝らしており、食料、寝具、各種装備品、医薬品なども十分に備蓄しています。これらを活用して、大規模災害時にも災害対応拠点としての機能を確保するつもりです。

備えの拠点

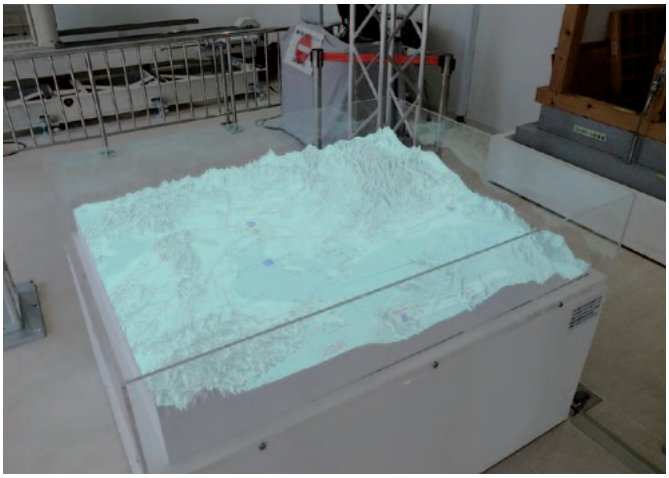
平時の減災館は、防災・減災に関する学びの場や、減災活動の担い手が集い連携を深める場になります。玄関を入った減災ギャラリーには、防災・減災について学べる様々な展示があります。振動装置と映像を組み合わせて長周期地震動を体感するBiCURI、様々な災害情報が3次元地形模型に立体的に映し出されるプロジェクションマッピング、名古屋都市圏を一望できる床面空中写真、津波の高さを実感できる垂れ幕、長周期の揺れを体感するためののぼり綱、災害時に備えるための備蓄品、建築耐震技術の実例、地震や津波の発生の仕組み、子供が工作をしながら耐震を学べるキッズコーナー、歴史地震の年表、最新の地震活動や活断層、有限要素法による液状化の再現計算など、基礎的な内容から最先端の研究成果まで広く紹介しています。

減災ギャラリーは、毎週火曜日〜土曜日（休日および不定期の休館日を除く）の午後1時から4時まで一般公開しています。研究センター所属の研究者が日替わりで話をするギャラリートークも毎日行っています。また、毎月1回夕方に「げんさいカフェ」を開催しており、研究者と一般市民との双方向のやり取りを通して、最新の知見を分かり易く提供しています。

1階奥の減災ホールでは、学部・大学院の講義のほか、防災・減災研究に関するシンポジウム、「名古屋大学防災アカデミー」、産官学民が連携した「あいち防災・減災カレッジ」等を開催し、研究会や人材育成に活用しています。

2階には、地震等の災害に関する資料が「減災ライブラリー」として集められています。新聞記事や雑誌、ビデオのアーカイブ、東日本大震災や阪神淡路大震災に関する書籍、東海4県の自治体の市町村史やハザードマップ、地域防災計画、地盤データ、古地図、災害に関係する法律や医療など、

自治体衛星通信用のパラボラアンテナ



プロジェクションマッピングを利用した3D ビジュアライズ

減災ホールで開催される防災アカデミー

防災・減災に関連する様々な資料が収集されています。また、大型のディスプレイで表示される「今昔マップ」では、昔の地図や標高図、空中写真、被害想定、今と昔の写真などを合わせて表示できます。自ら操作することで、自分が住んでいる場所の成り立ちや災害の危険性について知ることができます。

減災館の外へ出ると、北側の道路から地下の免震層を見学できます。免震装置の実物を目にする機会はなかなか無いので、興味深くご覧頂けると思います。免震の仕組みや実例に関する解説も用意されています。さらに減災館の周囲を注意深く見て回ると、この建物全体が免震装置を介して地面から分離されており、地面の揺れが直接伝わらない仕組みになっていることも分かります。

このように、減災館は、来場者が様々な展示や資料に触れることを通して自然災害について理解し、身近なところから防災・減災を考えてもらう「学び」や「気付き」の場であるとともに、研究者、行政、企業、一般市民といった防災・減災に関わる様々な人同士をつなげる連携の場でもあります。是非、同窓生の皆様や在学生のご家族の皆様、一度、減災館を訪れてみて下さい。

減災ライブラリー

災害対策本部室と訓練の様子

おわりに

減災連携研究センターは、多くの方々に支えられながら、「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」の気持ちで活動しています、減災館という「場」を活用して、地域の総力を結集し、あらゆる人たちが災害をわがことと思い、人任せにせず、自分の命は自ら守り、家族、地域を助ける、そんな社会を作っていきたいと思っています。上杉鷹山の師匠・細井平洲（愛知県東海市出身、尾張藩明倫堂初代督学）は、「勇なるかな勇なるかな、勇にあらずして何をもって行わんや」や「學思行相須つ」といった言葉を残しています。名古屋大学が標榜する行動する「勇気ある知識人」の一人として防災・減災を実現する実践的研究に取り組みたいと思っています。

活躍する会員たち　NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第22回は、農学部を卒業され、お菓子でよく知られる株式会社ブルボンの社長としてご活躍の吉田康さんにインタビューしました。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. An interview of Mr. Yasushi Yoshida who graduated from the Agricultural Department and is the current president of Bourbon, the company well known for these confectionery products, will be appeared in volume 22.

吉田　康さん（よしだ　やすし）

■略歴

1979年　3月　名古屋大学農学部農芸化学科卒業
1979年　4月　北日本食品工業株式会社（現株式会社ブルボン）入社
1987年　2月　同社　取締役就任第二製造企画部長（1989年6月1日に社名、株式会社ブルボンに変更）
1989年　7月　株式会社ブルボン常務取締役就任営業部兼第二製造企画部担当
1990年　2月　同社　代表取締役専務就任営業部兼第二製造企画部担当
1992年10月　同社　常務取締役就任第二製造企画部担当
1996年　1月　同社　代表取締役社長就任
1996年　5月　一般社団法人全国ビスケット協会理事就任
2004年　5月　同協会　副会長就任
2009年10月　新潟県健康ビジネス協議会会長就任
（2012年1月　一般社団法人へ移行　一般社団法人健康ビジネス協議会に名称変更）

創業90周年を迎えた食品製造会社
株式会社ブルボン（新潟県柏崎市）
代表取締役社長　吉田　康さん

── まず学生時代のことをお話しいただけますか。

どんな学生だったかと訊かれますと、いろいろお話しすることもありますがひとつだけ。一番の思い出は、卒論研究に全力で取り組んだということですね。

4年生になって配属されたのが「栄養化学講座」でした。ラット（実験用のネズミ）を使って、食餌の影響を調べる研究だったのですが、エサを変えながら開腹手術をして臓器の栄養学上のいろいろなデータを取りました。ラットは夜行性ですので、その生活サイクルに合わせて実験室を暗くしていました。時系列で一連のデータを取るために、実験を始めると徹夜が当たり前でした。

── 徹夜実験ですか。大変でしたね。

データを沢山取るために、短期間で数をこなすべく実験は一生懸命やりました。その結果として指導教官だった助教授の木村利三先生（現 大阪教育大学名誉教授）と連名で「食餌蔗糖によるラット空腸 Sucrase 活性の変動機序」のタイトルで論文を2報出すことができました。当時、先生からは「学部学生の名前が学会誌の論文に載るのは滅多になくて、意外と珍しいんだよ」と言われました。先生のお話では、私が実験を担当するまでに、何人もの先輩学生がチャレンジしてきていたのが、私の時にすっきりしたデータに纏まったから、とのことでした。

── ブルボンに就職された経緯について伺えますか。

実験三昧でしたので、学業成績はそんなに良くありませんでした。そこで就職が心配になり、夏休みの間に「会って下さい」といって幾つかの会社を自分で訪問しました。当時は秋からの就職活動が一般的な時代でしたね。

── 随分積極的でしたね。

訪問した会社を比較した中で、ブルボンは将来的に何をやっているか分からない面白い会社だな、という印象を受けました。柏崎には、新しいものにチャレンジしようという風土があるようで、そこが肌に合ったという感じでした。ブルボンという会社が、若い人にもチャンスを与えてくれるという雰囲気は当時からありました。

ブルボンの初代社長の吉田吉造は、和菓子屋（最上屋）でしたが、関東大震災で関東から日本海側への菓子の供給が止まってしまった。太平洋側の都会地にしか菓子工場がないのでは緊急時に対応できないので、日本海側にも工場を作る必要がある。それには栄養があって保存がきくビスケットが一番いい、と現業を始めました。その後、他の品目も製造するようになりましたが、三代目の吉田高章社長が、創業のビスケットに集中してシェアトップを取り、事業の柱としました。

── アグレッシブな経営姿勢に感じられたのでしょうか。

初代は、新しいものをどんどんやる。二代目は職人気質で、食べ物は美味しくないと駄目だ。三代目は、大勢の人に買っていただくためにはボリュームも要る。そのた

めには原材料にお金を掛けるようにしなければいけない。それで、美味しさと量の両方を備えたお菓子ということで、創業50周年を記念して作ったのが「ルマンド」で、先代（三代目）の大ヒット商品となりました。

吉田さんとブルボン社の商品（一部）

吉田さんが理事長のドナルド・キーン・センター柏崎にて

― 困難を突破する力は何でしょうか。

私が社長に就任したのは、売上が大幅に落ち込んで大変な時期でしたが、発売を始めた「プチシリーズ」を拡大するなど、時代のニーズに合わせた商品開発をして業績回復を果たしました。

ブルボンの社員は、新潟県出身者が多く、みんな辛抱強く粘り強いという気質を持っています。それが生産にも開発にも営業にも生きています。ただそれだけではなく、他県出身の社員とも融合することで、組織運営がうまくいっているのだと思います。柏崎は、外から来た人が住みやすい町であることも有効に機能していると思います。

ブルボンでは、災害時に備える食品という「創業の理念」に加え、食品による「より良い健康の提供」を企図し、その方向で研究をシフトさせ始めています。

地ビールの全国第一号の醸造所である「エチゴビール」の完全子会社化にためらいがなかったのも、健康のためには、お酒を全然飲まないより適量を飲んだほうが良いという研究結果に基づいての決断だったからです。

ブルボンは、お茶や水などの飲料も製造しています。阪神・淡路大震災の時は、首都圏に一斉初出荷するためにストック予定であったミネラルウォーターを、朝6時のTV ニュースで神戸市に黒煙が上がっているのを視て、翌日の朝、第一号生産品をトラックで被災地に送りました。目先の商売より、まず救援です。物流面で新潟が日本の中央的な位置にあったことも幸いしました。

―― 地域の雇用確保という社会貢献もあると思いますが。

先代が満洲から引き揚げてくる時に、人にとって大事なのは仕事があることだと思った、と言っていました。どんなに過酷な環境の中でも、仕事があることで生き甲斐を見出し頑張れたのが一番良かったと。だから会社経営においても、先代は雇用の維持・拡大によって地域社会に貢献するということをモットーにしていました。今のブルボンの経営の中核をなす考え方でもあります。

中国の浙江省にも工場を一カ所作りましたが、50年も100年も事業を継続して他に動かない方針です。我々の菓子作りのビジネスで、いかに中国に貢献できるか、いかに雇用を創出できるか、です。地元政府も、そこは理解してくれていて、いろいろ便宜を図ってくれます。

米国やヨーロッパでも、世界的な大企業が必ずしも首都圏に集まっているわけではありません。IT 革命による情報通信網の発達は、地方に拠点を置く会社が都会を拠点とする会社に遜色なく対抗出来る環境を整えてくれたと思っています。その意味で柏崎から動く気はありません。

―― 名大生に対して何か一言いただけますか。

ありがたいことに、私に続いてブルボンに入社する学生も何人かいます。ブルボンには、日本のため世界のため、災害支援や健康増進のため、常に新しいことをやっていこうというエネルギーが溢れています。いろいろなことにチャレンジしてみたいという学生は、学部に拘わらず入社試験を受けていただきたいです。ブルボンも医学や工学の分野の人と組んで、学際的に連携して研究開発していこうという流れにあります。大学院農学研究科出身の社員で、国内留学で医学博士号を取得、さらに米国で研究し、いまは国立大学の医学部講師を兼務する者もいます。人は育てれば育つものですね。

ブルボンは、米コロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン先生のような、日本の文化を理解してくださる方の支援をしています。日本の言葉・文化を守る人を育ててもいます。学生にはコミュニケーションの範囲を広げるべく、最低限の英語は勉強しておいてもらいたいですね。

―― 名古屋大学全学同窓会について一言いただけますか。

全学同窓会設立時の総会には喜んで駆けつけました。単独の学部ではなく全学部というところに期待しています。会社経営も複雑になってきて、何かを進めていく場合に異なる領域の方々に協力をいただかないとやっていけないことが増えてきています。その時に全学同窓会を通じた協力の仕組みがあることは、非常に心強く感じます。卒業生は、全学同窓会を大いに利用するべきと思います。

―― ありがとうございました。

インタビュアー　片岡大造、石川靖文
文　　責　石川靖文、伊藤志織
写 真 撮 影　伊藤志織

同窓会ニュース　NUAL News

全学同窓会副会長榊原定征氏が日本経済団体連合会会長に、副会長宮池克人氏が中日本高速道路株式会社代表取締役社長 CEO にご就任

平成26年6月3日、本同窓会副会長の榊原定征氏が日本経済団体連合会会長に就任されました。また、平成26年6月25日、本同窓会副会長の宮池克人氏が中日本高速道路株式会社代表取締役社長CEOにご就任されました。全学同窓会会員一同より、ご就任のお祝いを申し上げますとともに、今後のお二方のますますのご活躍を祈念致します。

なお、ご就任を記念致しまして、全学同窓会では次号のニューズレターにて、ご就任後のお二方のご自身の近況や、産業界からの同窓会・名古屋大学の将来への期待などのメッセージをお寄せ頂くことになっております。

榊原定征氏

宮池克人氏

大学支援事業目録贈呈

4月11日（金）、平成26年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成25年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、10件の応募総数から、表の4件が採択されました。事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

平成25年度第2回　採択事業

申請者所属・氏名		事業名
工学研究科　教授	吉川　典彦	工学部航空学科創立75周年記念事業
文学研究科　准教授	梶原　義実	名古屋大学東山キャンパス内における古代窯業遺跡の発掘調査
附属図書館長	佐野　　充	『水田文庫目録』刊行記念講演会
工学研究科　教授 （柔道部部長）	瓜谷　　章	国立七大学柔道部合同フランス遠征

採択事業代表者の方々

支部・部局便り　News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部　NUAL Kanto Branch

関東支部は、学士会館内の名古屋大学東京連絡所を拠点にしております。関東には、多くの同窓生がおりますが、異動も多くありネットワークの整備に努めております。「東京新聞」に掲載するなど、工夫を試みております。

関東支部長や代表幹事を交えての幹事会を通して①関東地区の各部局同窓会への名大及び全学同窓会の情報連絡と連携 ②関東支部として、HP 等による連絡ネットワークの構築 ③学士会との連携による同窓生の交流促進 ④名古屋でのホームカミングデイ等への参加を呼び掛けております。

本年は、全学同窓会と学士会との共催により、名古屋での「講演会・夕食会」の実施に取り組み、11月に実施します。（片岡大造）

現役社会人の交流会を企画しています。詳細が決まれば名古屋大学メールマガジン等でお知らせします。

（伊藤　法・平6）

■連絡先　名古屋大学全学同窓会関東支部

E-mail　nual-kanto@adm.nagoya-u.ac.jp

関東支部幹事会後の交流会

名古屋大学遠州会　NUAL Ensyu Branch

名古屋大学遠州会同窓会の第10回総会・第19回同窓会懇親会が平成26年6月14日（土）夕刻よりオークラアクトシティホテル浜松にて、来賓として濵口総長と伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員75名が出席して開催されました。総会では庄田会長の挨拶のあと、平成24年度、25年度の事業報告、会計報告に次いで役員改選を行い、野村和彦さん（工 S40）が副会長、伊藤実さん（法 S62）、稲本裕さん（医 S50）、磯部豊さん（医 S51）、鈴木久則さん（理 H5M）が幹事に選任されました。続いて来賓の濵口総長から大学を取り巻く厳しい環境と名古屋大学のグローバル化戦略の展開とその成果、オンリーワンを目指す大学の研究体制の強化策などについて詳細にお話があり、伊藤代表幹事からは海外支部、今年のホームカミングデイ、名大基金についての説明がありました。その後会場を変更しての懇親会では名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し、老若男女大いに盛り上がり和やかな会となって、最後に全員で記念写真を撮って終了しました。

■連絡先　名大遠州会事務局長　原田憲道

E-mail　enshuhrd@yahoo.co.jp

出席者集合写真

関西支部 NUAL Kansai Branch

名古屋大学全学同窓会関西支部第9回総会が、5月17日（土）、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員約70名が出席しました。

当日は、三洋化成工業(株)名誉顧問の筧哲男全学同窓会関西支部長の開会挨拶のあと、濵口総長から、「名古屋大学の国際化と人材育成―勇気ある人材は育成できるか―」と題した講演が行われました。名古屋大学においては、自由闊達で対等な人間関係や、強靱な精神力と勇気を持つ知識人を育成するための歴史的土壌が築かれており、現濵口プランにより、さらに、アジアを中心とした教育拠点開発によるグローバルな人材育成、および WPI、YLC プログラムの推進、研究大学強化推進事業採択など、世界トップレベルの教育研究現場としての役割を果たすべく発展しているとの報告がありました。

次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の支援活動、カード事業等の報告、および、来年度の事業計画についてお話がありました。

続いて、福和伸夫名古屋大学減災連携研究センター長から、「予測できる災害、南海トラフ巨大地震を総力で凌ぐ」と題した、現在、最も重要で注目度の高いテーマの講演が行われ、実際の災害の映像や、実験映像による解説に、会員の方は興味深く講演に聴き入っていました。

総会の様子

懇親会の様子

総会･講演会後の懇親会では、部局支部同窓会の代表者からの近況報告や、各テーブルでの談笑など、和やかなうちに終了しました。

今年度の各学部、学科関西支部同窓会の行事予定で、これまでに決定している内容は以下の表の通りです。

関西地区在住の会員の皆さんには、夫々所属されている同窓会にぜひご参加いただくようお願い申し上げます。

（建制順）

関西名法会（法学部）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成26年9月27日（土） 講演会 11：00～12：00 昼食・懇親会 12：00～13：30
	場所	大阪弥生会館（JR 大阪駅中央北口より徒歩5分） 大阪市北区芝田2-4-53　TEL 06-6373-1841
	講演	神戸大学　自然科学系先端融合研究環 助教　鈴木千賀様（名大 H22M 卒）
		演題「閉鎖性海域における藻の異常増殖と環境政策」
	責任者	会長）脇田喜智夫（S50卒）
	問合せ先	事務局）藤井浩雅（S58卒） E-mail：h-fujii@sonata.plala.or.jp
関西キタン会（経済学部）	平成27年新年講演会・懇親会	
	開催日時	平成27年1月17日（土）
	場所	中央電気倶楽部 大阪市北区堂島浜2-1-25　TEL 06-6345-6351
	講演会	11：00～12：30　2階会議室、 講演テーマ、講師は未定
	懇親会	12：45～15：00　3階レストラン
	問合せ先	事務局）竹村聡 E-mail：take55@office-takemura.com 竹村聡会計事務所　TEL 06-6364-6626
	第56回関西キタンゴルフ会	
	開催日時	平成26年11月11日（火）10：00～
	場所	能勢カントリー倶楽部 兵庫県川西市東畦野字長尾1-3 TEL 072-794-1101
	問合せ先	近藤　TEL 072-794-7017
応化会関西支部（工学部応用化学系）	恒例行事	隔年で総会、講演会、懇親会および工場見学会を実施
	今年度の実施状況	平成26年6月14日（土） 応化会本部総会と併催で関西支部総会、講演会、懇親会を実施
	来年度の予定	工場見学会を予定
	開催日時	未定
	場所	未定
	責任者／問合せ先	支部長）川嶋右次（S39卒） E-mail：riverisland@zb.ztv.ne.jp
共晶会関西支部（工学部金属・鉄鋼・材料工学系）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成27年3月14日（土）11：00～14：00
	場所	阪急ターミナルスクエア・17（大阪／梅田）
	講演	未定
	責任者／問合せ先	支部長）樽谷芳男（S51卒） E-mail：tarutani@nn.iij4u.or.jp 副支部長）松井良行（S57卒） E-mail：matsui.yoshiyuki@kki.kobelco.com 幹　事）加藤亮（H09卒） E-mail：kato.p95tyo@jp.nssmc.com

二葉会 関西支部 （工学部 電気学系）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成26年11月29日（土）17：00～20：00
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長）藤井眞澄（S44卒） E-mail：fujii-m@kanden-plant.co.jp
	問合せ先	二葉会HP又は、幹事）伊藤惠一（S62卒） E-mail：itoh.keiichi@nike.eonet.ne.jp
鏡ケ池会 関西支部 （工学部 土木工学系）	恒例行事	・支部大会（総会） ・関西バリバリ会（卒20年までの若手の集まり） ・関西銀シャチ会（60才以上の集い）
	今年度の関西バリバリ会の実施	
	開催日時	平成26年5月23日（金）18：30～21：00
	場所	がんこ阪急東通り店
	今年度の支部大会実施	
	開催日時	平成26年9月19日（金）18：30～21：30
	場所	がんこ阪急東通り店
	関西銀シャチ会予定	
	開催日時	平成26年11月21日（金）18：30～21：00
	場所	がんこ阪急東通り店
	責任者	支部長）浜嶋鉱一郎（S49M卒）E-mail：hamajima.koichiro@oakis.co.jp
	問合せ先	支部幹事長）鳥居剛（S54M卒） E-mail：torii@cpcinc.co.jp TEL 06-4300-3202
セコイア会 関西支部 （農学部）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成26年11月8日（土）10：00～15：00
	場所	大阪弥生会館
	講演	大阪労災病院　病理診断科部長　三輪秀明先生のご講話（演題：未定）
	責任者	支部長）加藤壽郎（S45卒）
	問合せ先	幹事）寺前朋浩（S61M卒） E-mail：teramae@sc.sumitomo-chem.co.jp

■連絡先　関西支部事務局長　脇田喜智夫
御所南法律事務所　TEL　075-253-0777
事務局　E-mail　office@goshominami.jp

二の丸会（名古屋市役所の法学部同窓会）

平成26年8月27日（水）18：30からKKRホテルにて名古屋市役所における名大法学部の卒業生の同窓会である「二の丸会」が開催されました。大学からは市橋克哉副総長、神保文夫法学部長、中野富夫准教授の3名が出席しました。

現在名古屋市役所には、法学部の同窓生が約400名在籍しており、今回は約50名の出席者がありました。

まず二の丸会会長の肆矢（よつや）秀夫財政局長（S54卒）が開会の挨拶を行い、神保法学部長の音頭で乾杯の後、来賓として市橋副総長、神保法学部長、中野准教授の順番で挨拶がありました。市橋副総長からは、最近の名大の取組みに関する説明や名大基金に関する依頼、神保法学部長からは新校舎建設をはじめとした法学部の近況や10月18日のホームカミングデイの説明を行い、卒業生は名大および本学部の活動に興味深く聞き入っていました。

肆矢秀夫　二の丸会会長のあいさつ

懇親会の様子

その後の懇親会では、参加した教員と同窓生が在学時代の思い出話で盛り上がる場面や、同窓生同士が旧交を温めている場面が随所にみられました。

宴もたけなわの頃、今年入庁した7名（全体15名）が順番に自己紹介及び名古屋市役所に入庁しての感想等を述べて、和やかな雰囲気の中で会は進行しました。

予定された2時間があっという間に過ぎ、最後に肆矢会長の締めの言葉でお開きとなりました。肆矢会長より次期二の丸会会長として、下田一幸教育長（S53卒）が就任するという報告も同時にされました。

今回は、副総長、法学部長が出席したことで、大学と同窓生との絆を一層深めることが出来ました。

同窓会支援事業　NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

「障がい学生の自立（自律）につながる支援を」実現するために

申請代表者：坂野尚美
（国際教育交流本部特任教授（国際教育交流センターアドバイジング部門ソーシャルサービス室））

学生たちを支援する際に必要な観点は、教育機関を卒業後、各自が自立した生活を送り自己実現をしていけるような支援をしていくということである。従来、障がい学生に対する教育機関での支援は、その場での学習に必要な情報を保障することを第1の目標として対策が取られてきた。しかし、今後は障がい学生自身が、環境を利用して自分に必要な支援を周囲と工夫し改善していくことも重要な視点となってくる。教育機関を出たあとの職場や生活場面において必要とされるコミュニケーションスキルを教職員も知っておくことは、障がい学生の自立（自律）を促すと考えられる。こうした観点から、教職員研修を行った。

また、学生自身から環境に働きかけ、能動的に支援を開発していく力が成長することは、学内や学外にある資源の有効な活用にもつながると考えられる。サービスをどのように活用するかは各学生の障害の種類や程度、またどのような活動を行っている場面であるかによって、大きく異なることは明らかである。各学生が自己理解を深め、環境に働きかけていく力を伸ばしていくことは自己コントロール感を高め、精神的健康にも良い影響を与えると考えられる。

ウィンターダンス

以上を目的とし、①将来に向けて、自分にどのようなサービス（資源）が必要か具体的に考える機会として、ファイナンシャルプランナーによるライフプラン講座を実施し、②社会人としてどのような態度・姿勢が求められているのか考える機会としてマナー講座を実施し、③能動的に環境に働きかけていく社会性を身につける機会としてコミュニケーションスキル講座を実施した。こうした研修のあと、ディスカッショングループ（多文化交流の会）に参加し、研修で身に付けたコミュニケーションを積極的に行った。

まちづくりとひとづくり ── 名大建築50年

申請代表者：勅使川原正臣
（環境学研究科　都市環境学専攻・教授）

本事業は、市民向けシンポジウム「災害とまちづくり ── 第15回まちとすまいの集い」、建築関係者・教育関係者向け講演会「これからの建築と教育」の二つのイベントから構成されていた。

前者については、パネリストの大澤和宏氏（株式会社名古屋テレビ塔社長）が名古屋の都市の発展と災害の話題、伊藤文郎氏（津島市長）が津島市の歴史と防災体制の話題、村山顕人氏（本学准教授）が東日本大震災の復興の話題を紹介し、司会者福和伸夫氏（本学教授）も交えて、災害とまちづくりについて、問題点とこれからの展望について、意見交換をおこなった。特に、今後予想される南海トラフ巨大地震への対応について、少しでも被害を減らす減災の思想の重要性が議論された。

後者については、古谷誠章氏（日本建築学会副会長、早大教授）と佐々木睦朗氏（法政大教授、本学建築学科卒業生）が、それぞれの大学で始めた建築設計教育の新たな取り組みを紹介し、司会者片木篤氏（本学教授）を交えて、これからの建築教育について鼎談をおこなった。特に、建築

設計が多種多様な知識を総合的に用いておこなう創造行為であることを学生に伝えていくことが重要であるということが指摘された。

なお、当日の参加者は、400名であった。

趣旨説明時の風景

「先輩と語る会」の開催

申請代表者：岩田　聡
（エコトピア科学研究所・教授　工学部電気系同窓会　二葉会　代表幹事）

1月4日（土）15時30分より「先輩と語る会」を名鉄グランドホテルにおいて開催した。このイベントは名古屋大学の学生が世代をこえ、いろいろな立場の方との会話の訓練ができるコミュニケーションの場を設けたものである。先輩諸氏が集まる同窓会の場をチャンスとしてとらえ、電気系の同窓会の場に併設して名古屋大学の学生を対象として開催した。本行事の趣旨に13社からご賛同いただき、企業側からは27名の方に対応していただいた。各企業に対しては、テーブルと椅子を用意し、お互いがリラックスして話ができる環境を整えた。学生への参加呼びかけは、電気系同窓会のホームページのほか、学内掲示やメールを通して行い、学部3年から大学院1年までの34名の参加を得た。ほとんどの学生が会の開催時刻よりもかなり前から会場に来ており、真剣さが伺えた。また、終了予定時刻の18時30分になってもほとんどの学生が懇談を続けており、会場使用の関係で終了をお願いしたほどであった。企業側からも学生からも適正な規模での開催であり、時間を掛けじっくりと話をすることができ、大変有意義であったとの声が聞かれた。企業からは、次回も是非参加したいとの意見も寄せられた。また、学生にとっては同窓会とのつながりを実感できる良い機会になったようである。

「先輩と語る会」で熱心に話を聞く学生たち

TEDxNagoyaU

申請代表者：山口　涼
（工学部機械航空工学科3年）

東海地区では学生初となるTEDxイベント、「TEDx NagoyaU」を開催しました。母体の「TED」はアメリカ発祥のプレゼンテーションイベントで、過去には元アメリカ副大統領のアル・ゴア氏や、マイクロソフト社会長のビル・ゲイツ氏が登壇した格式高いイベントです。TEDxイベントはこの「TED」から正式にライセンスを取得して世界各地で開催されているイベントです。

今回のTEDxNagoyaUでは、名古屋大学教授、会社取

名古屋大学、堀先生も登壇

締役、名古屋大学学生など11名、1グループが登壇し、それぞれ10分から15分のプレゼンテーションを実施しました。聴講者としては学生、教員など100名が参加し、登壇者の話を聞くだけでなく、休憩時間中やその後の交流会では活発な議論がなされました。

様々な分野で活躍する登壇者の講演を聞き、異なる分野の学習、研究をしている人たちが一同に会し議論をすることは、「総合大学」である名古屋大学だからこそできることであり、複雑に絡み合った現代社会が抱える問題を解決していくためには不可欠なことでもあります。

当日は、NHK 及び中日新聞が取材に訪れ、当日のニュース及び2014年1月25日（土）の朝刊で取り上げられ、「TED」、「TEDxNagoyaU」の名前をより広く知っていただくことができました。

最後になりましたが、名古屋大学全学同窓会の支援を受けこのような企画を開催し、参加者の方にこだわったお土産の配布や手の込んだ会場作りをすることができましたことを感謝申し上げるとともに、次回以降（現在、引き継ぎ作業を行っております）も継続的なご支援・ご協力を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

本番前日、司会のリハーサル

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/ をご覧下さい。

○名古屋大学文学部・文学研究科同窓会

イベント名：秋季サロン
『迷宮・名古屋城～本丸御殿のなぞを解く』
名古屋城総合事務所学芸員の朝日美砂子さんに名古屋城の実像や本丸御殿の復元に関するエピソードを熱く語っていただきます。一般の方々も大歓迎！
日　　時：2014年10月18日（土）14:00～15:30
会　　場：名古屋大学文学部・文学研究科2F
237講義室
入場無料
連 絡 先：FAX：052-789-2666
E-mail：bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp

○平成26年度　鏡ケ池会東京支部総会

工学部土木系学科の同窓会鏡ケ池会の東京支部総会を今年度も開催いたします。
日　　時：2014年11月14日（金）18:30～
会　　場：四谷　主婦会館プラザエフ
連 絡 先：各期幹事まで
不明の場合は今年度支部長　滝本和志まで
清水建設（株）技術研究所
社会基盤技術センター　社会インフラ技術グループ
E-mail：k.takimoto@shimz.co.jp
TEL：03-3820-6962

○二葉会東京支部総会

下記の予定で、二葉会東京支部総会を実施いたしますので二葉会員の方、ぜひご参加ください。
二葉会は、工学部電気電子情報系の卒業生の同窓会ですが、現役の名大生の方、在京の同窓生の方、お近くにお住まいの関係者の皆様も参加頂ける方は、メールにて、ご連絡ください。（会場の都合上、予告なく締め切る場合があります。）

日　　時：2015年3月5日（木）18：30〜21：30
会　　場：Fishbank 東京
（新橋駅から15分くらい。汐留シティセンター41階。）
http://tabelog.com/tokyo/A1301/A130103/13002536/
司　　会：清水麻里さん／元 CBC アナウンサー
（S62年文学部卒）
基調講演：藤原努さん／（株）ホリプロ 「Q さま!!」等のプロデューサー（S62年教育学部卒）
総会概要：東京で活躍される名大同窓生による基調講演と来賓による名大の活動状況の報告などに加えて立食の懇親会を予定しています。
参 加 費：未定
その他、詳細はメールで、お問い合わせください。
E-mail：futabakai.tokyo@gmail.com
平成26年度 支部長　石川清彦（S63年工学部卒）

○第17回名古屋大学農学部同窓会関東支部総会

日　　時：2014年11月22日（土）13:30〜17:30
会　　場：學士會舘302号室
〒101-8459　東京都千代田区神田錦町3-28
特別講演：昆虫少年のオデッセイ
日本生物地理学会長　森中定治 先生
特別公演：テノール独唱（森中先生）とバイオリンのミニ・コンサート
東芝フィルハーモニー管弦楽団
コンサートミストレス　小西千晶さん
主　　催：名古屋大学農学部同窓会関東支部
連 絡 先：E-mail：alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

○東山会

関東支部で予定されている行事は以下です。
1. 第7回フォーラム
日 時：2014年10月25日（土）11時〜
会 場：学士会館
「人に優しい　重粒子がん治療」
藤田　敬　氏（S59年機械科卒）
2. 第8回東山関東支部総会
日 時：2015年5月16日（土）13時〜
会 場：学士会館
情報は、適宜東山会関東支部 HP
http://higashiyamakai-kanto.com/ にアップします。

○名大遠州会第20回同窓会

日　　時：2015年6月13日（土）18：00〜
会　　場：浜松市オークラアクシティホテル浜松
連 絡 先：名古屋大学遠州会同窓会事務局長
原田憲道
e_mail：enshuhrd@yahoo.co.jp

○全学同窓会・一般社団法人学士会主催
講演会・夕食会

講演会
日　時：2014年11月26日（水）16：00〜17：30
会　場：名古屋大学理学南館　坂田・平田ホール
講演者：丹羽宇一郎副会長
題　目：「グローバリゼーションと日本の将来」
夕食会
日　時：2014年11月26日（水）18：00〜20：00
場　所：グリーンサロン東山　レストラン花の木
＊詳細は、名古屋大学全学同窓会 Web ページ（http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/）、Facebook ページ（https://www.facebook.com/nualface）にてご確認ください。

○第10回名古屋大学ホームカミングデイ

テ ー マ：「情報化社会における融和からの発展」
開 催 日：平成26年10月18日（土）
会　　場：名古屋大学 東山キャンパス 大幸キャンパス

○ウェルビーイング特別イベント
「国連デー記念イベント at Nagoya University」

テ ー マ：「ウェルビーイングの実現に向けて私たちができること」
開 催 日：平成26年10月21日（火）
会　　場：名古屋大学 東山キャンパス　ES 総合館 ES ホール
http://www.well-being.leading.nagoya-u.ac.jp/event/20141021-1.html

事務局からのお知らせ　From the NUAL Office

●支援会費のお願い　Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費　Supporting Fee

支　援　会　員　Supporting member　：一口　5,000円
支援法人会員　Supporting institution：一口　50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account　口座番号：00860－8－113043
自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」でつながる大学支援

名古屋大学カード ～ ゴールド ～

加入者は、11,500名を超えています。

年会費永年無料！　家族会員（1名）も無料です。
ポイントがたまる！　ポイントはご本人に付与されます。

名古屋大学 MUFG CARD Platinum American Express® Card

●初年度年会費半額優遇キャンペーン実施中
20,000円（税別）⇒10,000円（税別）
※キャンペーン期間：2015年3月31日(火)
名古屋大学全学同窓会事務局　入会受付分まで
家族会員／1名様は無料、2人目より1名様につき3,000円（税別）
●プラチナ会員様専用の特別なサービスを多数ご用意

名古屋大学全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化、名古屋大学支援の充実を目指して、「MUFG 名古屋大学カード」（年会費無料のゴールドカード）を発行しております。豊田講堂をデザインしたカードは、同窓生としてのアイデンティティの証です。ぜひこの機会にご入会ください。

- カード利用時に、利用額に応じて全学同窓会に還元され、大学支援の原資になります（ご利用者の負担はありません）日常のショッピングでのカード利用が、母校の恩師や後輩への支援に結びつきます。
- OB 企業等による優待サービス（木工家具、宝石、ビジネス週刊誌、旅行などの優待価格）もございます。

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エキスプレス®・カードはアメリカン・エキスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エキスプレス」はアメリカン・エキスプレスの登録商標です。

詳しくは、全学同窓会 Web ページをご覧ください。
http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/

編集後記

今号特集の減災センターの取り組みは、読者の皆様には大変身近な問題としてお読み頂けたのではと思います。活躍する会員たちのコーナーでは、本同窓会関東支部の皆様のおかげでブルボンの吉田社長へのインタビュー取材が実現し、様々な取り組みを楽しくお話し頂きました。今後も卒業生の皆様方の変わらぬご支援どうぞよろしくお願いいたします。　（全学同窓会広報委員会）

NUAL Newsletter No.22 平成 26（2014）年 10 月発行
Nagoya University Alumni Association
NUAL 名古屋大学全学同窓会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町　TEL/FAX 052-783-1920
E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp
ホームページ　http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/
編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会